

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護学概論 I	1	15	1 年次 ・ 1 学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	看護の基本となる概念 (人間・健康・環境・看護・生活) を土台とし、看護とは何かについて考える。実践科学としての看護、看護の役割、看護理論を学びながら、看護の理解と対象への関心を深める。さらに保健医療福祉活動における看護の特徴、専門職業人としての看護師について学ぶ。			
授業目標	1. 看護学の概念を明確にし、看護学の意義、必要性、看護実践の理論についての基礎を学ぶ。 2. 看護の対象である人間を健康と生活環境との関わりの中で理解し、その人に応じた看護の必要性を学ぶ。			
回数	授業内容			担当者
第 1 回	1. 看護について考える			
第 2 回	1) 学問としての看護 ・ 職業としての看護 ・ 患者中心の看護			
第 3 回	2) 看護の対象			
	3) 看護とは何か (看護の目的)			
第 4 回	2. 人間について考える			
第 5 回	1) 人間とは何か			
	2) 人間の共通性と個別性			
	3) 基本的看護の構成要素			
第 6 回	3. 看護の役割と機能の理解			
	1) 法的・倫理的責任			
	2) チーム医療における連携と協働			
	3) 患者の自立と支援			
	4) 看護が機能する場			
第 7 回	4. 安全・安楽の追求			
	1) 医療における安全			
	2) 医療における安楽			
	5. 専門職としての看護			
第 8 回	6. 認定試験			
自己学習 関連科目	ナイチンゲール「看護覚え書」を読み、授業に臨む。 ヘンダーソン：「看護の基本となるもの」を読み、主旨をまとめる。 関連科目：健康論 I、看護学概論 II、基礎看護技術 I～VII			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学 1 看護学概論 (メヂカルフレンド社) フローレンス・ナイチンゲール：「看護覚え書」－看護であること看護でないこと－ (現代社) ヘンダーソン：看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)			
評価方法	筆記試験：50%、課題レポート・授業参加への意欲・態度等：50%			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	看護学概論Ⅱ	1	15	1年次 ・ 2学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	看護の歴史から人々の尊厳を守り生活を支えてきた看護の本質について理解を深める。看護専門職業人として看護の現場にある倫理的課題に気づき行動するための看護倫理の基本的知識を学ぶ。看護研究の必要性和アドボケートとしての看護者の役割を理解し、リサーチマインドを育み、3年次の「看護の実践Ⅳ」(ケーススタディ)に繋げる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の原点と職業としての看護の成り立ちについて学ぶ 2. 看護倫理の基本的知識を学び、自己の看護実践から倫理的課題について考える 3. 根拠に基づく看護実践のために、看護研究の重要性を理解する 			
回数	授業内容			担当者
第1回	1. 看護の歴史			
第2回	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護の原点と職業としての看護 2) 戦後から現在まで 			
第3回	2. 看護倫理の基礎知識			
第4回	<ol style="list-style-type: none"> 1) 倫理学の基本的な考え方 2) 生命倫理の4原則 3) 看護実践上の倫理的概念 			
第5回	4) 看護師の倫理			
第6回	5) 看護職の倫理綱領			
第7回	6) 倫理的問題のアプローチ			
第8回	3. 看護研究の基礎			
第9回	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護研究の必要性 2) 看護研究における倫理 			
第10回	認定試験			
自己学習 関連科目	関連科目：倫理学、看護学概論Ⅰ			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 (メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 看護倫理 (医学書院)			
参考図書	ナイチンゲール伝 図説 看護覚え書とともに 医学書院			
評価方法	筆記試験：60%、課題レポート等講義参加態度：40%			
備考	レポート課題については、後日詳細を提示する。			

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期			
専門	基礎看護技術 I	1	30	1 年次 ・ 1 学期			
担当講師	専任教員（病院での看護経験あり）						
授業概要	看護師が行う看護行為の包括的概念である看護技術についての理解を深める。すべての看護実践の基盤となる、対象の理解と相互の関係成立に欠かせないコミュニケーション技術、感染予防の技術について講義・演習を通して学習する。また、人間の生活行動に大きく影響を与える環境について、人間と環境との関係や療養環境の調整方法を、講義・演習を通して学習する。						
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特徴、基本原則を理解する。 2. 人間のコミュニケーションは「意思を伝え他者とわかりあう」ことを理解する。 3. コミュニケーション技術を用いて看護の目的を達成していくことの重要性を理解する 4. 感染予防のための援助技術を習得する。 5. 人間と環境の関係と生活に影響を与える環境の構成要素について理解する。 6. 療養環境を整えるための技術を習得する。 						
回数	授業内容	担当者					
第 1 回	1. 看護を実践するために必要な技術 1) 人間の生活行動とは 2) 基礎看護技術とは何か	第 1 回 ～3 回					
第 2 回	2. 良好な人間関係づくりに必要な技術 1) 話すこと、聞くことの意義 2) 声を出す、聞く、言葉を認識するメカニズム 3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本						
第 3 回	4) 看護の対象を理解するためのコミュニケーション技術（演習） 5) 話すこと、聞くことが困難な人の状況と援助	第 4 回 ～7 回					
第 4 回	3. 外敵から身を守る技術 1) 感染予防の意義と方法 2) 感染症の成立過程と要素 3) 感染症を予防するためのプロセス						
第 5 回	(1) 微生物を伝播させないための看護技術 (スタンダードプリコーション、感染経路別予防策) 手指衛生・個人防護具の着脱（演習）						
第 6 回	(2) 感染源を死滅・滅菌させるための看護技術（消毒・滅菌法）						
第 7 回	(3) 感染性廃棄物の取り扱い (4) 針刺し・切創の防止 滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の着脱（演習）						
第 8 回	4. 環境を整えるための技術				第 8 回 ～14 回		
第 9 回	1) 環境とは (1) 環境と人間の関係 (2) 環境の構成要素						
第 10 回	2) 療養環境の調整の意義と調整方法 (1) 快適な療養環境を整えるための視点 (2) 快適な療養環境の条件と環境調整の必要性						
第 11 回	3) 崩れにくい快適なベッドメイキングの技術 (1) リネンの取り扱い・下シーツのベッドメイキング（演習）						
第 12 回	(2) 横シーツ・防水シーツのベッドメイキング（演習）						
第 13 回	(3) クローズドベッド・オープンベッド（演習）						

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

第 14 回 第 15 回	(4) 臥床患者のリネン交換 (演習) 5. 技術試験 (1h) 6. 認定試験 (1h)	
自己学習 関連科目	事前に学習内容に関して文献を調べておく。技術演習は、事前に講義資料・教科書で技術内容を復習し望むこと。技術の自己練習は主体的に行い、反復練習を行うこと 関連科目：解剖生理学Ⅰ～Ⅲ、看護学概論Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ・Ⅲ	
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社	
参考図書	看護における形態機能学 (日本看護協会出版会)、看護技術プラクティス (学研)	
評価方法	筆記試験：60% (第1～3回・第8～14回：40%、第4～7回：20%)、技術試験：40%	

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅱ	1	30	1年次 ・ 1学期
担当講師	専任教員（病院での看護経験あり）			
授業概要	対象の健康状態を評価するために身体の状態を捉え、判断するフィジカルアセスメントについての思考と適切にからだの状態を把握する方法について学ぶ。			
授業目標	1. 対象の健康状態を捉えるための基礎的フィジカルアセスメントを理解する。 2. 対象の健康状態を判断するためのフィジカルイグザミネーションを習得する。			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1. 看護におけるヘルスアセスメント 2. フィジカルアセスメントの基本			
第2回	1) 体表解剖とフィジカルアセスメント			
第3回	2) フィジカルアセスメントにおける基本技術			
第4回	3) 一般状態のアセスメント①：バイタルサイン 体温測定・脈拍測定・呼吸数測定（演習）			
第5回	3) 一般状態のアセスメント①：バイタルサイン 血圧測定（触診法）（演習）			
第6回	3) 一般状態のアセスメント①：バイタルサイン 血圧測定（触診法）（演習）			
第7回	3) 一般状態のアセスメント①：バイタルサイン 血圧測定（触診法⇒聴診法）（演習）			
第8回	3) 一般状態のアセスメント①：バイタルサイン バイタルサインの一連の動作・報告（演習）			
第9回	4) 一般状態のアセスメント②：身体計測			
第10回	3. 系統的なフィジカルアセスメントの実際			
第11回	1) 体表面のアセスメント 2) 呼吸器系のアセスメント 3) 循環器系のアセスメント 4) 腹部・消化器系のアセスメント 5) 感覚系のアセスメント 6) 脳神経系のアセスメント 7) 姿勢保持・運動系（脊椎・小脳反射）のアセスメント 8) 呼吸・循環を整える援助（体温管理・保温の援助）：罨法 9) 系統的なフィジカルアセスメントの実際（演習）			
第12回	4. 心理的・社会的状態のアセスメント			
第13回	5. セルフケア能力のアセスメント			
第14回	6. バイタルサインの総合的なアセスメント（演習）			
第15回	7. バイタルサイン測定（技術試験1h）認定試験（筆記試験1h）			
自己学習 関連科目	解剖生理について学習してから授業に臨む。技術は練習を繰り返し、その技術高めること 関連科目：解剖生理学Ⅰ～Ⅲ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社 熊谷たまき他監修 看護がみえる フィジカルアセスメント MEDIC MEDIA			
参考図書	山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック（医学書院）			
評価方法	筆記試験及びレポート課題等：60%、技術試験：40%			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術V	1	30	2年次 ・ 2学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	与薬時の看護師の役割を踏まえ、与薬方法の実際について既習学習を活用しながら演習を通して学ぶ。また、検査における看護師の役割をふまえ、検査時の実際について演習を通して学ぶ。			
授業目標	1. 診療 (治療・検査) における看護師の役割が理解できる。 2. 与薬の種類とその特徴を理解し、確実に与薬する基本技術を習得できる。 3. 検査における看護師の役割を理解し、検査時の看護ができる。			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1. 検査時の看護技術 1) 検査の概念と看護師の役割 2) 検査の種類と方法 3) 放射線被ばく防止策	第1回 ～4回 第5回 ～14回		
第2回	2. 簡易血糖測定の方法 (演習)			
第3回	3. 静脈血採血 (演習)			
～4回				
第5回	4. 与薬の看護 1) 与薬における看護師の役割 2) 薬剤の種類と取り扱い 3) 与薬方法と効果の観察 4) 与薬の副作用(有害事象)の観察 5) 経口与薬法の援助 6) 与薬の実際			
第6回	5. 外用薬の皮膚・粘膜適応 1) 口腔内与薬法 2) 直腸内与薬法 3) 塗布・塗擦法・貼付 4) 薬液噴霧法 5) その他 (臍剤・点眼法)			
第7回	6. 与薬法の実際 (演習: 直腸内与薬法、塗布・塗擦法・貼付)			
第8回	7. 注射薬による与薬の援助 1) 目的・適応 2) 注射の種類 3) 注射法の使用器具と取り扱い 4) 注射薬 5) 注射薬の準備と実際			
第9回	8. 注射薬の準備と実際 (演習)			
第10回	9. 皮下注射 (演習)			
第11回	10. 筋肉内注射 (演習)			
第12回	11. 静脈内注射・点滴静脈内注射 (演習)			
第13回	12. 点滴静脈内注射をしている患者の看護			
第14回	13. 輸血時の看護・注射法に使用するME機器			
第15回	14. 技術チェック: 筋肉内注射 (1h) 15. 認定試験 (1h)			
自己学習 関連科目	既習内容の解剖生理学・薬理学は復習して授業に臨むこと。 関連科目: 基礎看護技術Ⅰ、看護の実践Ⅲ、成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児援助論、			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学②③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (メジカルフレンド社)			
参考図書	看護につながる形態機能学 メジカルフレンド社 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 医学情報科学研究所			
評価方法	筆記試験及びレポート課題等: 100% (第1～4回: 30%、第5～14回: 70%)			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	基礎看護技術Ⅶ	1	15	1年次 ・ 2学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	看護は、対象者の現状や今起きている健康に関わる問題の原因を捉え、今後起こりうる問題も予測しながら、対象に合った看護支援を導き出し実施していく。その過程の中で、問題解決思考過程を用いて看護を展開していくことは有効である。そこで科学的根拠に基づき“対象を適切に捉え、看護上の問題点を導き、看護によって望ましい姿に近づける計画を立案し、実施・評価する”という、一連の看護過程の展開技術を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の目的と意義を理解できる。 2. 対象の現状に応じた看護を導くために看護を展開する過程がわかる。 3. 事例を通して、看護過程の展開の一連の過程を実践できる。 			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1.看護過程とは 1) 看護過程の目的・意義 2) 看護過程の基盤となる考え方			
第2回	2. 看護過程の展開技術			
第3回	1) 看護過程の構成要素とプロセス 2) アセスメント			
第4回	3) 看護上の問題の特定と優先順位の決定			
第5回	4) 看護計 (1) 看護目標の設定 (2) 計画 (具体策) の立案			
第6回	5) 実施・評価			
第7回	3. 看護診断とは 4. 看護記録			
第8回	5. 認定試験 (1h)			
自己学習 関連科目	事例展開のために、事例の特徴的な身体機能や生理、生活や発達に関することを学習する。 関連科目：『症候治療論Ⅰ～Ⅳ』『症候各論Ⅰ～Ⅴ』『薬理学』			
テキスト	新体系看護学全書 基礎看護学② 「基礎看護技術Ⅰ」 メヂカルフレンド社 看護が見える vol.4 「看護過程の展開」 メディックメディア			
参考図書	NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類 2021-2023 (医学書院)			
評価方法	筆記試験：50%、レポート課題等：50%			

独立行政法人国立病院機構金沢医療センター附属金沢看護学校授業計画 (Syllabus)

分野	授業科目名	単位数	時間数	開講時期
専門	健康教育論	1	15	2年次 ・ 1学期
担当講師	専任教員 (病院での看護経験あり)			
授業概要	「教育」「指導」の本来の意味合いを知り、その上で具体的な集団・個人に対する指導方法について理解する。さらに実習で活用できる健康教育を学習するために、実際の健康教育の対象者や患者体験を通して、「わかる」「できる」とはどういうことかを考え、対象者の目的を達成するための対象者に適した方法を考案する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育」「指導」の意味を理解する。 2. 健康を維持するための教育の方法を理解する。 3. 健康行動理論を理解し、実践への活用について理解する。 4. 健康教育の演習をとおして、効果的な健康教育の展開方法を体験する。 			
回数	授業内容	担当者		
第1回	1. 健康教育の考え方			
第2回	1) 健康教育の定義			
第3回	2) 健康教育の目的			
第4回	2. 患者教育の考え方			
	1) 患者教育とは			
	2) 患者教育の特徴			
第5回	3. 保健行動			
	1) 保健行動の分類			
	2) 保健行動への変容			
第6回	4. 健康行動理論の活用			
	5. 患者指導の実際			
	1) 指導の効果を最大限に高める方法			
第7回	2) 学習のニーズのアセスメント			
	3) 指導の形態			
第8回	4) 対象に合わせた指導計画			
	5) 指導の評価			
	6) 健康教育の方法と媒体			
	6. 健康教育の実際			
	個別の健康教育の実際 (個別指導)			
	7. 認定試験 (45分)			
関連科目	関連科目：成人援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域・在宅健康維持論			
テキスト	最新保健学講座 別巻1 健康教育論 メヂカルフレンド社			
参考図書	松本千明著：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎			
評価方法	筆記試験：50%、プレゼンテーション・受講態度等：50%			

